

東九州支部報

第 57 号

社団法人 日本山岳会 東九州支部 2012 年 4 月 25 日発行



定期総会 (2012年4月14日)

1. 平成 24 年度 総会報告	5. ペンリレー
飯田 勝之 2	「ペンリレー」通して
会計処理の新方式場行利の中部を開発して	考えさせられたこと 荒金 通子 12
2. 月例山行報告	でいるいる取り組ん試達物の指手段総倉管護 支部歴
一月の山行 佐藤 壮吾 5	6. より安全な登山のために No.4
二月の山行 児玉 章良 佐藤 壮吾 6	『正しい事とは??』 安東 桂三 12
までに一般住人になるか、公益強人に発過が失為ない。	描述艺术技術的功能性而多的包括音樂學等對任心的全對任心的
3.三角点と山城探訪シリーズ 第2回	7. インフォメーション
三等三角点 冠山、星河城、王子山城、岩瀬砦	14
	この後に33年度の非業報告宣信報整難翻除整理
以金多族性発用表面後列級では成立。。英雄対象を会対	間がおこなわれ、特に事業報告では、公益社園
4. 無名山ガイドブック NO.48	受辦語演排號學及時也理要結為崇華獎的复商者非本語

蒲江森崎の稜線歩き……… 飯田 勝之 10

1. 平成24年度 議会報告



平成 24 年度支部定期総会終わる

飯田 勝之

公益社団法人としての第一歩の年

平成24年度の支部定期総会が去る4月14日(土)午後6時から、大分市コンパルホール「視聴覚室」で開かれた。日本山岳会が4月1日から正式に公益法人として認可されてスタートした初年度の支部総会ということになる。

総会はまず、三浦敬志会員を議長に選出。加藤支部 長が挨拶に立ち「昨年度、それまで長年支部をリード してきた梅木支部長、西事務局長体制から、我々の新 体制になって一年。公益法人化へ向けての準備の年と していろいろ取り組んできた。昨年の総会で新支部長 の就任の挨拶で言ったように、『我々が何故日本山岳 会に加入届を出したか』を考えてみよう、と言うこと をもう一度この場で言いたい。そして、みんなで支部 を盛り立てていき、いっそう活性化していこうではあ りませんか」などと述べた。

この後、23年度の事業報告、会計決算報告、会計 監査報告がおこなわれ、特に事業報告では、公益社団 法人化へ向けての事業として取り組んだ植村直己賞受 賞記念講演会などが成功裡のうちに実施できたこと や、10回目を迎えた青少年体験登山大会の盛り上が りなどが報告された。また、会計決算報告に関しては、 当初予算では昨年度までの編成を行っていたものを、 24年度からの公益社団法人に向けた編成に組み替え ての決算となったことなどが説明されて、全ての報告 が承認された。

続いて、平成24年度の事業計画案と予算案が提案され、原案通りに承認された。事業計画では、何といっても公益事業の取り組みが課題であり、いくつかの新規事業の提案があり、具体化については役員会にゆだねた上で原案通りに決定を見た。また、予算案では正式な公益法人として、本部に報告義務のある部分を特別会計として分離した、決算書と同じかたちの編成による予算編成となったこと、収入については、23年度は事業によるものがあったが今年度はその見込みがないなど、前年度に比べてかなりの緊縮財政となったことが説明された。それに対して、支部費の年間1,000円は低すぎる。この際値上げをしたらどうか、などの意見も出され、それについては次期総会へ向けて役員会で検討することとなり、そのことも含めて原案どおりの決定となった。

このほか、総会では、公益社団法人となったことに よる、大幅な規約改正案や支部協賛事業の新制度、支 部の山の決定などの議案も提案され、原案通りに決定 された。

公益社団法人への移行について

会計処理の新方式移行

公益法人制度の改正により、民法第34条により設立された日本山岳会のような法人は、平成25年11月までに一般法人になるか、公益法人になるか、あるいは解散するかしかなくなる。日本山岳会はその設立の趣旨から公益法人を選ぶこととなった。公益法人になれば、事業支出の半分以上は公益のために使わなければならなくなる。これは本部に全面適用されることになるが、本部から交付を受けている会員1人あたり2,500円(会費12,000円のうち支部に還元される金額)の助成金にも適用される。この金はこれまではその使

い道を全て支部にゆだねられていた。しかし、今後は、 この 2,500 円の『助成金』は、共益事業に使う『交付金』 と、公益事業に使う『補助金』とに分けられる。

そのうちの1,000円が従来通り、支部会員の活動費 (共益事業費)に使える『交付金』となり、残りの1,500 円は公益のために行う事業に補助する『補助金』となっ た。つまり、各支部においては、補助金に相当する公 益的事業は最低限実施しなければならなくなるという ことである。

しかも、この金は全て本部の管理下にあるため、使い切らなければ残額は全て本部に返納しなければならず、なおかつ、使ったお金については、領収書等の証拠書類をつけて、本部に決算報告しなければならない。このため、会計方式も、支部一般会計と、本部へ報告する交付金会計及び補助金会計の二本立てとする必要がでてきたのである。

公益事業の展開

公益目的事業とはどういうものか。認定法第2条第4号に「学術、技芸、慈善その他公的な種類(別表の定めあり)の事業で不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」とある。これを受けて、本部が認可窓口の総務省と協議して決めた大まかな事業の分類は「登山振興事業」「調査研究事業」「環境保全事業」となっている。

これをもとに、定期総会で提案された24年度の公益事業は次のとおりである。

- ①第11回青少年体験登山大会(7月22日(日)久 住山を予定)
- ②視聴覚障害者支援登山大会(11 月頃)
- ③登山教室(中高年や若者をはじめ初心者を対象に した登山教室を開催)
- ④祖母傾山系のスズタケの枯死状況調査 (実施方法 は別途検討)
- ⑤清掃登山の実施(年二回実施する)

いずれも具体的に役員会で協議し、実施計画を出して支部会員の出来るだけの参加で取り組むこととなった。

何しろ、公益法人としてはじめて本格的に取り組む

ことであり、その具体化には多くの会員の参加協力が 必要なことはいうまでもない。

共益事業の実施

共益事業とは外部を対象とはせず、従来からやって る我々支部会員だけのための事業である。今年は次の ようなものが総会で決まった。

- ①支部会員登山研修会(会員・会友の登山技術の研 鑽をはかるため研修会を実施する)
- ②韓国山岳会蔚山支部との交流登山(5月25日夜 交流会、26日由布岳・27日鶴見岳)
- ③合宿交歓会(10月ごろ、あせび小屋にて)
- ④合宿登山(11月3日・4日ごろ・伯耆大山・キャンプ)
- ⑤忘年登山と忘年会(12月8日・9日、国東半島または九重山系)
- ⑥月例山行

24年度のテーマ「九州各県及び近県の最高峰に登る」

- 5月 山口県 寂地山(1337m)
- 6月 高知県·徳島県 三嶺山(1893.4m)·剣山(1954.7m)
- 7月 長崎県 雲仙岳·普賢岳(1359.3m)
- 8月 熊本県 国見岳(1738.8m)
- 9月 福岡県 釈迦岳(1229.5m)
- 10月 愛媛県 石鎚山(1982m)
- 11月 鳥取県 大山(1709.4m)(合宿登山)
- 12月 島根県·広島県 恐羅漢山(1346.4m)
- 1月 香川県 龍王山(1059.8m)
- 2月 鹿児島県 宮之浦岳なので本土最高峰・韓国岳(1700.1m)
- 3月 佐賀県 経ヶ岳(1075.7m)
- 4月 宮崎県 祖母山(1756.4m)

役員会で毎回の山行リーダーを決め、そのリーダー のもとで具体的実施計画を決めたうえで会員に周知 し、参加を募ることとなった。

支部協賛事業制度

新しい事業制度として支部協賛事業制度を新設する こととなり、その実施要項が次のように定められた。 これは、支部会員が支部の行事とは関係なく、独自に 計画(山行に限らず、調査研究活動や、講習会、講演会、旅行等々)してその参加者を支部会員の中に求めようするときに、役員会の承認を得て支部協賛事業として取り組めることとしたもので、今後のありようによっては、新しい支部活性化の種となることも期待される。

支部協賛事業実施要項

- ①支部員が個人または複数で主催者となり、計画 的に行う山行等を支部協賛事業として実施する ことができる。
- ②支部協賛事業を実施しようとするものは、その 実施計画を提出し、支部役員会の承認を得なけ ればならない。
- ③支部協賛事業と認められ事業については、支部 の機関の場を通じて参加者の募集等を行うこと ができる。
- ④支部協賛事業を実施したときには、その結果を 支部に報告するものとする。
- ⑤支部協賛事業行うときには、必ず保険をかける など全て自己責任で実施するものとする。

山の安全を祈る集いを恒例行事に

80年前の九重山における最初の遭難者をはじめ、過去の九重や県内の山での遭難者の慰霊を行うとともに、山の安全を祈るため「山の安全を祈る集い」(仮称)(安全登山祈願祭)を、東九州支部の恒例行事として、法華院温泉と共催で毎年実施することを定期総会で決めた。なお、この行事については、広く一般登山者への参加も呼びかけて行うことになった。

- ①日 時 毎年8月第1日曜日(本年は8月5日)
- ②場 所 久住避難小屋上の遭難慰霊碑前

『支部の山』は九重山に決定

「支部の山」について、アンケートを行った結果、 有効投票数 66 票のうち、久住山 29 票をはじめ、大船 山、中岳、九重連山など、九重山の関係が 42 票を占 めて全体の 64% となっていたことをふまえて、役員 会で九重山とすることを決めて総会に提案し、全会一 致で決定。ちなみに、第二位の得票は由布岳19票。

規約の全面改正

本部の公益社団法人への移行を受けて、支部の規約も大幅な改正が必要となり、本部に作られた「支部に関する規程」及び、支部規約準則をふまえて、東九州支部規約の改正案が総会に提案され、原案通りに決定された。新しい規約は、創立当初からある従来の簡易な規定事項のみではなく、公益社団法人の支部として備えるべき条項を多く設けた規約で、ほぼ全面的な改正となり、従来の規約は廃止のうえ4月1日から新しく施行されることとなった。この新しい規約のおもな改正点のポイントは次のとおりである。

- ①「事務所は大分県内におく」ことと「主として大 分県の地域」ということを明記
- ②支部会員は『会員』と『会友』としてその位置づけを明記
- ③支部会員の資格を明記し、支部費を3年以上滞納 した場合は、会員は資格停止、会友は除名とする ことを明記
- ④支部長は選任後本部の承認を必要とすることを明 記
- ⑤役員の中の常任委員を事務局長に変え、会計を新 設
- ⑥役員条項に顧問を置く条項を新設
- ⑦支部費はその年度の6月末までに納入義務を明記
- ⑧総会終了後は、事業報告、決算報告、事業計画、 予算等を本部に報告義務を明記
- ⑨本部から交付される交付金及び補助金の決算は年度終了後1ヶ月以内に本部へ報告義務の明記
- ⑩規約の重要な改正(名称、地域の変更等)は本部 の承認を明記

2. 月例山行報告

一月の山行 蔦島・黒島・三ツ子島

佐藤 壮吾

1月29日 今回予定の最初の島、津久見島へは、瀬渡し船が予約できずに取り止めとなり、佐賀関半島近くにある『蔦島』からはじめることとなった。出発の『幸の浦』に集まったのは13名。その中には、今回は新たに日本山岳会へ加入した若い二人も参加していた。



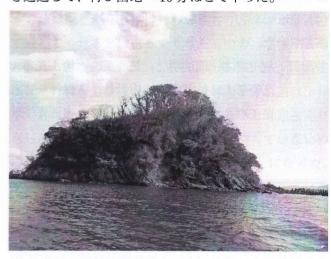
蔦島の三角点にて

瀬渡し船で『幸の浦』から7時50分に出て『蔦島』の南の入り江に8時着。浜の沖から船外機の小舟に乗り移り、3回分乗して砂浜に上陸。船頭さんの話によれば、子どもの頃に何度か登っていたそうだ。その経験から、南の入り江から山頂まで1時間はかかるとの話を聞いていたが、実際は、稜線への登り口を発見後、山頂へは8時20分というわずか20分の時間で到着した。

山頂では、ウラジロの中、三角点探しに 15 分。発見した三等三角点の周りを整備して記念撮影後すぐに下山し、登り口の入り江へ向かった。予定より早い 8時 55 分に入り江の浜へ到着し、対岸の『幸の浦』へ戻っていた船頭さんに連絡し、あわてて船を『蔦島』に向け出発した。そして 9時 25 分には『幸の浦』へ戻り、そこから、次の島『黒島』へ渡るため臼杵市佐志生へ向かった。

佐志生港を10時15分に出発し、わずか3分で目の前にあった『黒島』へ到着。この島は江戸時代(1600年・慶長3年)に、歴史に影響を与えたオランダの難破船『リーフデ号』が漂着した場所でもある。そのためか上陸記念公園が整備され、その乗組員であったウイリアム・アダムス(三浦按人)、ヤン・ヨーステンといった歴史上の人物の像が立っていた。付近には、夏に利用される海水浴やキャンプのための宿泊施設やシャワールームなど備えた施設が整備されていた。

昼食のだんご汁に使う食材を島の施設の方に預けて、10 時半に公園近辺の登り口から登り始め、わずか 10 分で島の最高地点に到着。三等三角点だった。下りは反対の別ルートで下山した。このルート沿いには柑橘類の栽培がおこなわれている畑が広がり、そこを通過して、再び園地へ10 分ほどで下った。



三角点のある三ツ子島

そのあと、再び船に乗り込み、11 時に『黒島』の南に三つ連なる小島『三ツ子島』の中央の島へ向かった。5 分ほどで目的の島に近づく。手前で船を止め、ここも引いていった船外機船で4人ずつピストンで島に輸送された。先発隊から登山開始、藪分け急斜面を10 分ほどで登りきる。小島南端の山頂には三角点が埋もれていた。狭い山頂で記念撮影後、発見された反対側の緩やかなルートから下山。再び、ボートのピストン輸送を経て12 時半には『黒島』へ再び上陸、ここで昼食のだんご汁を食べる。いよいよ佐志生へ戻ろうと船に乗り込み出発した直後、『三ツ子島』へ忘れ物があるのに気付き、船は再び『黒島』へ上陸。そして、浜の広場でだんご汁の昼食会だ。



三ッ子島の三角点にて

そのあと、再び佐志生に向けて出発、2時50分には佐志生港に到着し解散した。その後、登り足りない若者二人と児玉・佐藤(壮)は、『津久見峠三角点』(427.3m・二等)へ向かい、4時半に峠へ到着して帰路についた。

参加者:飯田勝之、渡部昭三、後藤英文、池永光希、 芝崎隼人、岐部威吉、中野稔、久保洋一、 児玉章良、佐藤壮吾、牧野信江、遠江洋子

二月の山行 奄美大島の山々

児玉 章良、佐藤 壮吾

2月10日(金)、昼前、車2台で鹿児島市に向かう。約5時間のカーチェイスで到着。車を飯田さんの友人にあずけ、新港に。フェリー「あけぼの」号で17時半、奄美大島へ向け出港。約12時間の船旅で「名瀬港」到着。エンジンの真上か?うるさくて、うるさくて、配れなかった。途中、甲板に出ると雨が降っていた。嫌な予感も当たり案の定、奄美は雨だった。早々予約していた7人乗りレンタカーに乗り込み、朝食へ。ジョイフルで済ませ、エヴリワンで昼食等を調達し、いざ「湯湾岳」へ。

県道79号を海岸に沿って東シナ海を見ながら南下、「大和村」から山への車道に入り、「マテリア滝」横を通過し、「奄美フォレストポリス」の公園に立寄った。ここで、「緋寒桜」の記念撮影会を行った。ただし道

なりに植えられていた鮮やかな緋色とは違い、梅の花 ようなピンク色だった。2時間強のドライブで「大和 村側登山口 | 着。今回は小雨が降っていたので、北側 の短いコースを選んだ。長いコースは「宇検村」側に あり約1時間の南コースとなっているようである。山 頂近くまで滑りやすいが木の立派な階段が続いて、亜 熱帯雨林らしく、うっそうとした森であった。夏なら 間違いなく「ハブちゃん」がでそうな雰囲気だった。 階段を15分も歩くとちょっとした広場にでる。ここ には立派なお社と馬の像があった。大きな展望台もあ り、晴れた日は東シナ海が一望できるのであろう。こ こからさらに湿地帯のような登山道を行くと5~6分 で山頂に着く。全行程約20分だ。かなり傷んだ「湯 湾岳一等三角点(694.4m)」が出迎えてくれた。展望 もなく、霧に包まれていたので、早々記念撮影をし、 下山。再び車に乗り込み、「湯湾展望公園」を通過し、 「字検村役場」まで下山。

道の両側には「ハイビスカス」が花をつけていた。「ハイビスカス街道」というそうだ。ここから再び県道79号海岸沿いを南下。「名柄」から峠を越え、「久慈」に下り、再び海岸沿いを「加計呂麻島」を見ながら西へ。峠まで上り詰め、車を止め、登山を試みたが、崖になっており、とても登れそうにない。少しバックすると山の尾根が国土交通省の地積調査のために切り開かれている。ここを登ることにした。かなり急登だが20分ぐらいで山頂に到着。誰も登る人はいないのであろう。三角点のあたりが少しだけ開けているのみ。登山道らしきものも無いようだ。当然展望も無い。「戸



湯湾岳にて



戸倉山にて

倉(とぐら)山一等三角点(411m)」がポツンと鎮座 しているだけだった。記念撮影を済まし、早々下山。

車に乗り込み、今宵の宿に向け出発。帰りは、この 半島の尾根を縦貫する林道で79号へ。ガスに巻かれ て何も見えない。峠から再び79号に出て、南下開始。 海岸の防波堤で昼食を取り、「油井岳」へ。「瀬戸内町 油井」から林道へ。「展望公園」までは林道というよ り立派な車道だったが、それ以後は、拡張工事真っ直 中で、荒れまくっていた。途中で車を止め、徒歩で山 頂を目指す。NTT 電波塔まで登り、そのフェンス脇 を通り、1~2分で「油井岳三等三角点(482.8m) | 着。 展望なし。帰りに、すぐ隣の「高知山」にも寄ってみ ることにしたが、三角点は見当たらなかった。この山 には多くの電波塔が立っており、立派な4階立ての円 形展望台もある。この上からは天気が悪かったが「加 計呂麻島」や「大島海峡」を行き交う船が手に取るよ うに見えた。ここを中心に周回公園にもなっているよ うで、観光バスが上がってくる観光スポットになって いるようだ。緋寒桜が植えられた一画もあり、絶好の 撮影スポットにもなっているようだ。

「瀬戸内町古仁屋」に下り、ビジネスホテル着。ホテルの窓からは先ほどの高知山が目の前に見えた。18 時過ぎには近くの居酒屋で反省会開始。島時間なのか料理がなかなか出てこないし、注文の品もまともには出てこない。料金も食った割には安すぎる。かなり計算漏れがあったようだが。奄美の名物「鶏飯(けいはん)」も頂いたが、当初、炊き込み飯だと思っていたが、全く違った、いわゆる「お茶漬け」だった。何と、こ

の程度が名物か?と思ったが・・・2時間あまりの反省会も終わり、再びホテルへ。皆さんは2次会で盛り上がっていたようだが、昨晩のフェリーで眠れなかったため、即、爆睡。

目が覚めたら朝6時であった。7時にホテルで朝食 を済ませた。この時の「ゴーヤの炒め物」とちょっと した刺身がうまかった。8時に出発し国道58号で北 上開始。幸い天気は回復に向かいそうだった。1時間 あまりで、「住用村」の「マングローブ群生地」着。 ここの道の駅で休憩をとり、再び北上。30分ぐらい で「新和瀬トンネル」通過。すぐ「松長山」へ伸びる 車道へ入っていく。情報によると台風で林道が崩壊し ており、上れないとのこと。案の定、いきなり通行止 めの看板があった。日曜日なので工事はやっていない だろう、ということで、上れる所まで上ってみた。し かし、残念ながら工事は行われており、ユンボをどけ て通してくれるとは言ってくれたものの、崩壊がある ということなので、ここに車を止め歩くこととなった。 ユンボの横を通り抜け、ひたすら林道歩き。道は十分 車が通れた。失敗。車を取りに帰ろうかとも思ったり もしたが、奄美に来て本格的な登山はやっていないの で、1つくらいは苦労しよう、ということになった。 歩き始めて50分。大崩落現場着。わずかに残った車 道を怖々通過し、25分で三角点入口と看板がある場 所に到着。ここから、さらに未舗装の荒れた林道を 20分歩いて稜線に取り付く。5~6分で「松長山一等 三角点(455.2m)」着。展望なし。一等三角点だが小 振りで三等の大きさであった。いたる所にマングース



松長山にて

の罠があったが、遠江さんが実物を見つけ出した。残 念ながらマングースはいなかった。記念撮影を済まし、 ひたすら来た林道を引き返す。

奄美はすでにタラの芽が食べ頃になっており、10 数個ゲットした。また、キクラゲが大量にでておりレ ジ袋いっぱいゲットした。これを持って帰り、天ぷら にして食べたまではよかったが、この時人差し指に刺 さっていたとげが災いし、1週間後、外科で切開され、 二針も縫う惨事となってしまった。途中、お嬢さん連 中は若い兄ちゃんの軽トラに乗せてもらい下山したそ うだ。後ろ姿が若い子に見えたのか?男連中には声も 掛けてくれなかったのに。13 時着。再び58 号に出て 北上。「名瀬」を通り、コンビニで昼食を買い、途中「植 物公園」で昼食を済ませ、最後の目的地へ。「赤尾木」 から県道82号に入り空港方面へ。「アヤマル岬」を見 ながら15時、電波塔の入口着。ゲート横を通り抜け、 電波塔へ。ここから森に分け入っていくが、人の通れ る道が山頂まで続いていた。少し寄り道をしたが20 分あまりで「高岳一等三角点 (183.6m)」着。ここも 一等なのに大きさは三等だった。天気も回復し、360 度のパノラマが広がっていた。

記念撮影を済ませ、車に戻り、帰路につく。サトウ キビ畑で飯田さんがおじさんに声をかけてサトウキビ の大木を数本ゲット。「奄美パーク園」に立ち寄る。 ここは元 NHK のキャスター宮崎緑さんが園長を務め ており、会えると信じていたが、無情にも不在だった。 「西郷南州遺跡」にも立ち寄り、「名瀬」の港へ。出港 が21時20分ということで繁華街の居酒屋で最後の反 省会。「誇羅司屋」という大衆居酒屋だったが、島の 魚や名物が味わえるお勧めのお店である。アバス (ハ リセンボン) の唐揚げや甘鯛の刺身、赤うるめ (グル クン) の塩焼き、ミミガー大根サラダ、山羊汁など 本当においしかった。これだけでも奄美に来たかい があった。21 時乗船。程なく消灯。帰りは波もなく、 エンジン音にも苦しめられずゆっくり眠れた。8時30 分前「鹿児島新港」着。奄美には一等三角点が4つし かなく、今回は全部踏破できた。また、奄美の山には 全く山名板がない。あまり登る人はいないのであろう。 奄美をでるときは天気がよかったのに、鹿児島に帰る と雨模様だった。しかし、せっかくここまで来たのだ

から、鹿児島の山に登って帰ることにした。ただし、 小雨も降っていたので手軽に登れそうな山を考えた。 三重嶽、八重山あたりと思ったが、1回登っているの で、三重嶽近辺にある「花尾山」に登ることにした。 安部号と別れ、佐藤号に佐藤、渡部そして私と3人で 市内のガストで朝食を済ませ、まず「花尾神社」に向 かった。薩摩日光と呼ばれる神社で、この上宮のある 山が花尾山である。神社に参拝を済ませ、ガイドブッ クにある林道歩き50分を車で上り、登山口へ。本格 的な雨になったが、カッパに身を包み登山開始。かな り急な山だったが約30分で山頂着。「花尾山三等三角 点(540.4m) | が出迎えてくれた。今回の山でこれが 一番きつかったと思う。「鹿児島北 IC」から高速を飛 ばし、途中で昼食を済まし、「益城熊本空港 IC | で降り、 俵山バイパス、高森、遊雀、波野、竹田、大野を経由 して、着工が始まったばかりの「高江ニュータウン」 の我が土地を見て、自宅へ。18時前であった。あい にく雨に祟られた登山であったが、2度と行くことの ない山々に登れたのは、よかった。特に「松長山」は 林道の崩壊でガイドブックには登れない、とあったが、 今回強引にも登れたことはラッキーであった。



参加者:安部可人、渡部昭三、飯田勝之、今山アヤ、 遠江洋子、児玉章良、佐藤壮吾

3.三角点と山城探訪シリーズ (第2回)

三等三角点 冠山 617.5、星河城 520、 王子山城、岩瀬砦

安部 可人

今回の主役は野津院の柴田紹安,宗麟を恨んで謀反、 その悲劇。将来いかほどの勇士になったか宮千代丸そ の悲話。

番匠川の波寄の山口へ、林道山口線 350 先端の山の神駐車。後から行く伐採作業道みえる。5 分で 400 の分岐点、58'04.1", 45'47.9"。

西へ荒れ作業道 20 分で取付き点の 500 崩壊峠、 54.9"、45.7"。西へ雑木軽ヤブ、北へ植林尾根、楽々 35 分。 617.5 冠山着、冠嶽城という。

つぎは、謎の星河城へ。3年前、中の谷トンネル南 1キロの三等 万地 409.5 から恐ろしい岩山・534 見 えて、それがそうか、忘れていたが梅木データのおか げ特定できた。さきの400分岐が作業道基点。最初は 登り、450で大きく回りこみ、500の平坦道、伐採展 望快適。途中、四等呉木518.6 あり。丁度冠山と椿山 の中間点500 鞍部交差点、北数分で520台地星河城跡 到着(惟定進軍路)、約1時間半。

地籍標石、雑木林、破れ鹿ネット、他なにもない、 別名星降城、1600年もう一度ここが戦場になる。さ らに北西の絶景の岩山・476 詰城は15分(佐藤)。 1586年冬、紹安の本貫地野津院へ島津侵攻と同時、 栂牟礼城の若武者佐伯惟定の武将が南から後方かく乱 の目的もあってこんな山奥にきて、内応放火、紹安妻 子一族を生け捕り(人質だったか、薩摩兵もいた)、 佐伯西正寺で殺害。

さて、同時進行の対薩軍戦。険阻な北側の野津院でかれらは鍾乳洞の裏山王子山城・455から岩瀬砦へ移り善戦,討死したが、13才宮千代丸と妹は生け捕りに反抗、隠した短剣で油断した敵の部将を一撃、殺された悲話あり。一寸の松の中にも、棟梁の姿ありとはか

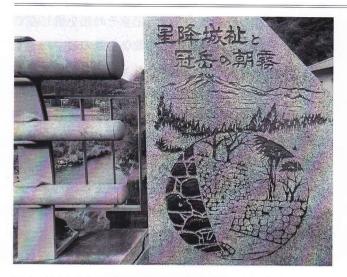
かることを言うのかと「豊薩戦記」その死を惜しんでいる。野津合戦では相当数の勇敢な土豪の名が残っていて、吉四六さんの祖先もいる。

ヤブ山初め頃の宇目塩見園の・343 朝日岳城跡再 訪。39線、町教委の説明板あり。森の作業道、整備 された小径20分。平坦で広い眺望の山頂、奥に2基 の石祠、山城跡の雰囲気。耳川大敗から8年、かれら はやって来た。派遣された城主柴田紹安は南部衆が島 津恐怖症であったうに(落ち目の大友、内応裏切り沢 山)、武略、思慮の深いこの人物も心変わり、主城星 河城へ妻子疎開させ(実は人質)、最重要防衛線を捨 て自身は島津占領の二等三角点天面山(尼顔ずら城) へ入る(自分も人質)。紹安悲報に後悔して逃げ出す が島津に斬られた。



星河城

冬の戸次川の戦い。豊後侵攻その最盛期は1586年。 島津家久軍はのちの西郷軍とおなじ道梓峠(四等 梓 嶺725.0登山してその峠不明)から侵入、難なく朝日 岳城から三重の・273 松尾山山麓一帯に一万の兵布陣 (松尾山は展望の山頂に見張り台、20分の楽しい登 山)。ここは1年間空き本陣で、その周辺攻撃。府内 は見捨てられて、放火破壊、乱暴狼藉、3000人拉致、 宗麟は臼杵城に逃げて、あの大砲で撃退、息子義統は 高崎山から竜王山へ逃げ、無責任。鶴崎城の吉岡妙林 尼の武勇伝と佐伯惟定の活躍がうれしい。・193 利光 山(鶴賀城)、下の成大寺・利光宗魚墓から四国の若 武者信親の墓地(2人も英雄)と散歩によい。三等三 角点の坂原山248.1(10分)、梨尾山179.8(25分)は 敵軍の陣地跡、激戦の念仏坂あり。



割後橋の欄干の案内

(注) 星河城の北登山ルートは割後場からダム手前分岐東へ、観音滝案内(駐車)を右に地図にない恐怖のブル林道、暗くおそろしい。実線の道と 280 大曲がりで合流、あの 500 峠三叉路まで1時間 30 分、そこから数分(同行者佐藤、私しばらく腰痛)。

岩瀬砦 380 01'28.5",44'14.1 は岩瀬地区の池左入り、10 数分で 01'45.6",43'53.4" 林道合流、安部は林道あるき 40 分、終点の上に砦跡。

佐藤は目前の急斜の 320 台地の 1 つ墓 (臼杵東泉) 39.7",02.3" の前衛激戦地から尾根を砦へ、40 分。

(参考: 古賀敏夫「大友宗麟」、「日本城郭大系 16」 地形図 新版の「植松」「犬飼」)

4. 無名山ガイドブック No.48

蒲江森崎の稜線歩き

飯田 勝之

今回はややハードだけど、結構面白い蒲江町にある 稜線歩きコースを紹介しよう。一日のんびり、ひと一 人会うこともない静かな山旅を保証できるコースだ。

森崎湾に注ぎ込む三つの川のうち一番西の森崎川に 沿って上っていくと、高速道路(工事中)の下をくぐっ て約300mで、道路の左に山が迫る。そのあたりがと りつくのによい。ヒノキ林の急斜面をやや左斜めに登 れば稜線状となっており、右がヒノキ林、左が天然林 の境に蒲江町の測量杭が点々と上へ続いている。これ を目印に登るとよい。やがてヒノキ林も終わり快適な 稜線登りとなる。急になったり緩くなったりしながら 登っていくと、再び右にヒノキ林が現れ、登り始めて 約50分ほどで、左から斜めに登ってきている古い杣 道が右へと続いているのに出会う。この道は森崎天満 宮の横から登ってきている道で、古くからある宮崎県 へと通じている道だ。この道を横切りそのまま直登し ていく。かなり急な登りだが、10分ほどで登りつくと、 そこは稜線上の小さなコブの上。ここには「滝内」の 四等三角点 (362.9m) がある。

三角点より北へ稜線を伝うと、緩く下ったところで 右から先ほどの杣道と合流する。これから後は、稜線 を忠実に登っても良いが、常に稜線の東側を巻き気味 に登っているこの道を登った方が、楽だし、それに古 い道をたどると、歴史を秘めたようなその独特の雰囲 気を味わうことができる。さらに高度が 450m を越す あたりで、稜線は高い岩壁が立ちふさがるので杣道を いった方が安全。

三角点から約1時間で574mの独標に達する。ここは佐伯湾と外海との間に連なる長い分水嶺の一角であり、元越山から場照山にいたる県南最大の縦走路の一角でもある。ルートはここより右に縦走路をたどるのであるが、時間と体力に余裕のある場合は左に場照山まで足を伸ばすと面白い。場照へは稜線沿いに杣道が

続いており、道を行ってもよいし、稜線を行っても、緩やかな稜線漫歩を楽しめる。やや急な登りを登ったところの、分岐から35分ほどのところに地蔵尊があり、さらに5分ほどやや急登すると小ピークに達する。ここが県境稜線上で、前方の宮崎県側は広い範囲で皆伐され、眼下に広い谷間が広がり、遠く傾山までの景色が見える。場照山は右手向こうに見えるピークで、ここより県境添いに行くことになるが、鹿避けのネットが延々と張られている。ネット伝いに緩く下って、登り返せばその奥に二等三角点(660.7m)の山頂。独標からほぼ1時間。以前は鬱蒼とした照葉樹の木立の中にあったが、今は大分県側は以前のままだが、宮崎県側が広大な規模で伐採されて明るく展望も良く、場照山の昔の面影はない。

独標まで引き返し、縦走路を北東にとる。三方に稜線を持つこの独標地点、滝口方向へ戻らないように注意しよう。緩く下って緩く登り返すと15分ほどで狭い山頂に達する。三等三角点(564.6m)のある「森崎」だ。標石意外は何もなく、展望のない狭い山頂。ここも稜線を三つ持ち、北へたどる稜線の方に迷い込みやすいので要注意。東に向けて少しヤブをわけながら急斜面を下るとはっきりした稜線道となり、再び快適な稜線漫歩。25分ほど行った稜線の鞍部に「豊豫要塞第三区」と書かれた石柱が立っている。横に昭和一五年一二月と読める。鶴見半島や佐賀関半島でも見かけた旧陸軍の遺産だ。

二度、三度と緩いアップダウンのあと、かなりの急傾斜の登りとなる。その手前でシイ、カシの大木の間から、後方の展望が開けて、場照、森崎のピークをふり返ることができる。登りは道が判然としないがとにかく登るとほどなく山頂で、ヒシャカキ、アセビ、ユズリハ、ネジキなどの低木に囲まれた狭い空間の真ん中に、四等三角点「坂本」の標石がある。

ここから稜線は北に平らに続くが、そちらに行かず、 鋭角に引き返し気味に南東に下る。ここも下り始めは 低木のブッシュがあるが、少し下ると楽な稜線漫歩。 小さなアップダウンの四つ目で稜線は直角に南東方面 と南西方面へと分かれる。前者は轟峠を経て元越へと 続く主稜線で、これと分かれて南西方向へ、そして南 方向へと緩くカーブしながら下っていく。下りきった 平らな鞍部には古い杣道があり、この道は稜線の東斜面を下っていく。この道をたどっても良いが、これは稜線を避けて山腹を巻きながら林の中を野々河内浦の神社の横へと下っていく。それよりも稜線下りがよい。明るい灌木の稜線を下っていくと、山頂から約1時間10分余りのところの、平らな稜線の一角に四等三角点(292.9m)の「金正」がある。ひと休みするのにちょうど良いところだ。

ここより再び急な下りとなり、南へ南へと下っていく。落葉樹の多い明るい林から、照葉所の多いやや暗い林の中になるといっそう急になり、稜線が判然としなくなる。落ち葉の多い斜面を足下に注意しながらひたすら下る。稜線が分かりづらいので方向を間違えないよう、南南西方向の稜線を拾うようにしよう。突然木立が途絶えて明るい稜線に出たら、下方が高速道路の工事現場だ。工事中の道路の脇を通る道に出て、津江川を越えて西にたどれば、朝登り始めた森崎川の岸に着く。

【参考コースタイム】

森崎の登り口~60分~滝内三角点~70分~主稜線分岐~40分~県境稜線~15分~場照山~15分~県境稜線~40分~主稜線分岐~15分~森崎三角点~60分~坂本三角点~75分~金正三角点~30分~津江川

【地図】 25,000 分の1 (蒲江・三川内)



5. ペンリレー

「ペンリレー」を通して 考えさせられたこと

荒金 通子

皆さんは「ペンリレー」がスムーズに回るのが当然 と考えますか、それとも回らないことだってあると考 えますか。私は、「ペンリレー」の当該者になり、両 方のことを考えるチャンスをいただきました。

「東九州支部報」を読む立場、読者側にいるときは、 スムーズに回るのが当然と捉えていました。(正直に 言いますと忙しいという言葉に隠れ、真剣に読んでな かったが、ペンリレーの話があった、改めて読むよう なことでした。) ところが「ペンリレー」の原稿を書 き、次の方へバトンを渡す立場になった時、バトンを 渡したいのだが受けてくれる側がなかなか居ない。(依 頼の努力が足りない、日頃から会の活動に参加してな いから、その結果と言われればその通りかもしれな い。時間的な余裕をもってしたのか。同じ会の仲間と いえども、親しき仲にも礼儀ありを忘れて、安易に考 えていたのではないのか。お願いさえすれば、当然引 き受けてくださるだろうと勝手に信じ、判断していた のではないか。相手のおかれている状況や立場など深 く考えたのか、念の入れ方は十分だったのか、石橋を たたいて渡る慎重さが欠けていたのではないか。私に バトンが渡された時、どう感じたのかを思い出せば相 手がどの様に思うか、何を望んでいるか分かっていた はずですが、「のどもと過ぎれば」ということばの通 り、原稿を書いて送り、誰かにお願いすれば責任を果 たした気分になっていた。)回していくことが思った より困難で、回らないことだってあるのだと分かりま した。今まで回っていたことがとても素晴らしいこと だと強く思いました。私は、回すことができませんで した。甘い考えの自分を反省します。結果、編集担当 の皆さんをはじめ会員の皆さんに多大な心配やら迷惑 をかけることになりました。本当にごめんなさい。

「ペンリレー」のコーナーはリレーで繋いでいくの

が当初の方法だったのでしょう。回るように努力していくのが大切なことであると思いますが、今回のように回せないことだってあります。何泣き言言っているのかといわれるかもしれませんが、「ペンリレー」のコーナーを使い提案をさせてください。皆さんの中には、ずっと受け身でリレーの順番が何時回ってくるのか待っている方は、積極的に載せてみてはいかがでしょうか。是非私の文を載せたい、読んでいただきたいと思われる方ならなおのこと。自薦、他薦関係なく遠慮なく編集担当に送付してみてはいかがでしょうか。皆さんのサロンです。

次回は皆さんに「ペンリレー」の依頼をいたします。 よろしくお願いいたします。

「ペンリレー」のことを通して「東九州支部報」の 1冊、今まで当然のようにして受け取っていました。 今回のことを通していろいろな角度から捉えなおす良 いきっかけができました。感謝いたします。再び登場 したことをお許しください。

6. より安全な登山のために No.4

『正しい事とは??』

公益社団法人日本山岳会東九州支部 安東 桂三 (9193)

山と渓谷(2011年12月号)に、あるニュースが掲載されました。以下に紹介すると。

北ア登山道で不必要なペンキの道案内が増加

北アルプスの槍ヶ岳周辺から北穂高岳に向かう稜線上にある中岳と大キレット、また槍ヶ岳山頂下の槍沢の登山道に、白いペンキで道案内に見える印(矢印、丸印、バツ印)が勝手につけられていることが、10月7日発見された。(一部、省略)今回発見された印では、通行止めになっている廃道にも丸印がついており、安全上の問題が指摘されている。(以下、省略)

このようなニュースでした。

過去にも、同じようなことがありました。たぶん、10年位前のことで、場所は、北アの槍ヶ岳北鎌尾根。同様に、間違ったルートにも、丸印や矢印が勝手につけられていました。この時は、槍ヶ岳山荘の職員や、長野県の山岳関係者が、このペンキ印を、シンナーで消してまわりました。

ちょうど、このころ、JAC 東九州支部の星子先輩が、 私に、『阿蘇の鷲が峰に、誰かが、マーキングをして いる。木にテープを巻くように、鷲が峰の弾丸ルート の岩コブのあちこちにテープを巻いている。それも、 間違った所もある。危険なところもある。』と、教え てくれました。この時、私は、星子先輩と、この問題 について話し合った記憶があります。

先の、北アの不必要なペンキは、つけた本人は、必要と思ってつけてまわったのか? 人を遭難させるために、わざとつけたのか? とにかく、要らぬお世話と思います。

大分の山々にも、テープは、氾濫し、道しるべも氾濫しています。だが、一般の登山者は、そのテープや、道しるべを信用し、それのみを見て、登っています。そして、そのルートを登った登山者は、それを、インターネットのブログなどで、一般に紹介しています。そのブログを見た人は、その内容を信用し、そのコースを登ります。それが、正しいと思って。でも、もしかしたら、間違ったルートかもしれないし、危険なルートかもしれない。

大分百山の一山の桑原山。2002年当支部発行の『登山ガイド 大分百山』には、万次越経由で、桑原山の山頂へのルートを記載してあります。その『大分百山』発行時は、そのルートはスズタケに覆われ、万次越がどこであるか分からず、本文には『峠と言えるような踏み跡を探すことも困難である』と記載されています。だが、現在では、スズタケも枯れてなく、1241mピークには、『ここは万次越』と、立派な看板が設置されています。そして、いくつものホームページやブログには、その立派な看板が紹介されています。

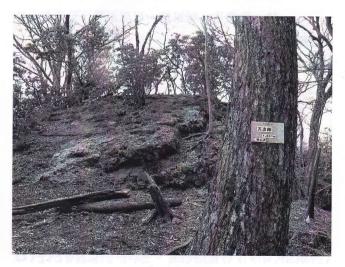
立派な看板を、設置した人は、本当に、そこが、『万 次越』と思い、『ここは万次越』と設置したのだと推 察します。また、最初にそれをブログで紹介した人は、 やはり、そこを正しい『万次越』と思い、『ここは万次越』 と紹介したのでしょう。

だが、国土地理院の1/25000 地形図では、点線のルートが、1241mピーク直前の1200m標高付近より、迂回し、県境尾根を越えています。1/25000 図には、岩マークはありませんが、現地では、岩が出てくる所です。かって万次さんは、その岩を巻くように、歩きやすく、標高の低い所を、越えていたのでしょう。藤河内から祝子川へ、あるいは、祝子川から藤河内へ、荷物を運んでいたのでしょう。現在では、万次さんもいませんが、推察するに、『ここは万次越』は、『ここは万次越ではありません』です。

でも、立派な看板と、それを紹介する多くのブログ やホームページにより、『ここは万次越』は『万次越』 となってしまいました。

北アの不必要なペンキと同様、不必要な看板。それらを信用する人(登山者)は、もしかしたら危険な場所にいるかもしれないし、間違っているところにいるのかもしれない。

基本は、自分の能力で、判断すること。その能力を 高める努力をすること。ペンキ印があるから、安全と か、看板があるから、間違ってないとは、………。



万次越の看板

看板は、木ネジで生木に締め付けられている。 山師は、生きている木には、釘などを打つことを絶対にしなかった。 縄などでくくることはあったが、釘などを打ち付けることを嫌った。

7. インフォメーション

韓国山岳会蔚山支部との交流登山

今年は蔚山支部を、当方が案内する順番です。日 程が次のように決まりました。多数の会員・会友の ご参加をよろしくお願いします。

1. 懇親会

日 時:5月25日(金)午後6時から

場 所:「新龍門」別府市北浜 1-14-1

(ホテル・ニューツルタの裏手)

TEL 0977-75-9258

会 費: 5.000 円

2. 山行 《太灵》等。从同意考入为太灵》等の大量为

5月26日(土) 由布岳

(午前8時30分南登山口発)

南登山口~またえ~西峯~お鉢廻り~東峰

~猪瀬戸登山口

5月27日(日)鶴見岳

(午前8時30分鳥居山口発)

鳥居登山口~鶴見岳~鞍ヶ戸~内山~塚原

越~伽藍岳~塚原越~塚原温泉

3. 参加申し込み

参加できる方は、次の要領で事務局までご連絡く ださい。

- ①懇親会及び二日間の山行全てに参加する
- ②部分的に参加する

この場合は、「25日・懇親会」「26日・由布岳登山」 「27日・鶴見岳登山」に分けて、参加できる日を ご連絡下さい。

4. 参加申し込み期限

5月15日までに事務局までご連絡下さい。

2012自然保護全国集会 「尾瀬を考える」

月 日:6月30日(土)~7月1日(日)

場所:尾瀬高原ホテル

(群馬県利根郡片品村戸倉 329

TEL0287-58-7511)

参加費:13.000円(1泊2日)

参加申込締切:5月15日

※詳しくは事務局まで

2012自然保護全国集会プレスタディ 「東日本大震災被災地慰霊と支援の旅」

日 時:6月29日(金)

コース:東北自動車道で仙台~石巻~猪苗代(泊)

宿泊場所:猪苗代観光ホテルで「被災地支援の夕べ」

を開催

参加費:自然保護全国周回費13.000円プラス

20,000円 (バス・宿泊代)

※詳しくは事務局まで

作品募集 「日本百名山」写真コンテスト

主 催:深田久弥の文化館

テーマ:深田久弥の百名山

応募締切:11月15日

※詳しくは事務局まで

役員会開催のお知らせ

平成24年度第1回役員会を次のとおり開催しますので、各役員には万障お繰り合わせのうえご出席下さい。なお、都合がつかず欠席される場合は事務局までご連絡下さい。

日 時:5月9日(水)午後6時から

場 所:大分市「コンパルホール」

登山案内 「一等三角点全国ガイド」

.....

全国にある標高 500m 以上の一等三角点(546 点) をガイド

一等三角点研究会 編著

ナカニシヤ出版

A5版 260頁

日本山岳会員割引価格:1,890円(定価2,100円)

ご希望の方は事務局まで

月例山行予定

5月月例山行予定 寂地山

月 日:5月19日(土)、20日(日)

出 発:午前5時

登 る 山:19日・鬼ヶ城山(1030.9m)、

20日・右谷山 (1233.9m)、寂地山 (1337m) (予定は寂地山だけであるが、せっかく遠 路行くので、二つ追加)

集合場所:大分駅上野の森口広場 (ローソン前)

金 額:高速道路代 4,750 円 (片道) 及び自動車代 (ガソリン代等) を参加者で分担。あと、

食料・飲料・お酒等は各自調達持参。

(六日市のスーパーで食糧購入予定)

コース及び日程:

5月19日 大分~中津~小倉東 IC ~六日市 IC ~

国道 434 号まで約 5 時間

国道 434 号~50 分~林道登山口~50 分~ 鬼ヶ城山~45 分~林道登山口~40 分~国 道 434 号

5月20日 寂地峡~2時間30分~右谷山~1時間30分~寂地峡 山~1時間45分~寂地峡

リーダー:飯田 勝之

連絡先:090-2503-8409

申し込み:5月11日迄

6月月例山行予定 剣山~三嶺

月 日:6月2日(土)、3日(日)

出 発:午前5時

集合場所:大分駅上野の森口駐車場

金 額:1人 約10.000円

コース及び日程:

6月2日 佐賀関発 7:00 →三崎着 8:10 →大洲イン

ター着 9:10 美馬 11:25 →見ノ越 12:30 〈⇔

名頃(下山口へ一台車をまわす往復2時間) 見ノ越 14:30 →剣山山頂着 16:00

6月3日 剣山山頂発 3:00 →三嶺着 10:00.

三嶺発 11:00 →名 頃着 14:00 →三 崎着 21:30 →佐賀関着 22:40

リーダー:下川 幸一

連 絡 先:090-8662-5100

申し込み:5月26日迄

7月月例山行予定 普賢岳

月 日:7月8日(日)

出 発:午前5時

集合場所:大分インター入口 300 m手前の交差点角の

セブンイレブン

金 額:1人 約5.000円

コース及び日程:

7月8日 大分インター 5:00 →金立 SA 7:30 →諫早

IC 仁田峠 9:30

仁田峠 10:00 発→妙見岳 10:40 →国見岳

11:15 →普賢岳 12:30 昼食

仁田峠 13:45 →大分 18:00 到着予定

リーダー:中野 稔

連 絡 先:090-2712-5225

申し込み:7月5日迄

8月月例山行予定 国見岳(八代市,椎葉村)

月 日:8月18日(土)、19日(日)。

出 発:午前9時

集合場所:大分駅上野の森口駐車場

金 額:1人約5.000円

コース及び日程:

8月18日 大分駅 9:00 → 15:00 ⇔下山口へ一台車を

まわす往復1時間

8月19日 不土野発3:00→雷坂→国見岳着10:00, 国見 岳発11:00 → 1509 m分岐13:00 → 1424.6m 三角点15:00 →下山口着16:30 →大分21:30 到着予定

リーダー: 久保 洋一

連絡先:090-8353-9770 申し込み:8月11日迄

おしらせ

◆編集部からのお願い

- ・原稿は原則としてメールでお送りください。 メールアドレス yariho1953@yahoo.co.jp
- ・原稿は記事内容にもよるでしょうが、800字~ 1200字を目処にお願いいたします。 400字詰め原稿用紙2~3枚、パソコンですと26字詰31行~46行です。

2012年4月25日発行

東九州支部 支部報第57号

発行者 加藤 英彦 編集者 久保洋一・中野 稔

発行所 事務局 〒 874-0820

別府市原町 5-14 飯田勝之方 TEL・FAX 0977-21-3437